

纏頭回は、財産の上にて、斯の如く貧富の差等甚だしきもの有り、雖も貧者と富者との精神上は、敢て懸隔あること無く、概して圓滿なりとす。蓋し彼等の内少しく富む者は、概ね城外に園圃を有す。其の園内には、種々の草木を植栽し、池水、休憩所、飲食場を設備して、一般公衆の娯樂場に供せり。彼等の同種族は、其の貧富を問はず、老若に拘らず、夏日は此處に聚りて、或は阿渾の勸善懲惡談を聴き、或は年少の男女一同音楽舞踏以て娛む有り。又冬季は、時々富者の大厦に集合し、男女相混りて歌舞す。而して商民の會合は夏季、農民の集會は冬日餘閑の時に多し。

彼等富者にして、毫も其の富に誇らず。而も公衆の爲めに、斯る別莊を開放し、衆と偕に相樂むの狀は、實に感賞すべき美風と謂ふ可し。新疆に於て多數貧者の、敢て富者を疾視する念なく却つて富者に心服尊敬を拂ふの狀あるは、全く是れ有るに因る。

我國富豪者の、徒に壯麗なる別莊を鎖して、之を家人の獨占的娯樂場と爲し、多衆と接近することを好まざる者多きは、彼の纏頭富豪の洪量なるに視て、果して慚色なきを得るや。